

令和5年度 教育計画(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科 理数科学科 人文社会科学科	1	家庭	家庭基礎	2
教科書		補助教材		
Agenda家庭基礎 (実教出版)		生活学Navi2022 (実教出版)		
到達目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解し、それらにかかわる技能ができる。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決できる。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践できる。	
学習の評価	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。(知識・技能)			
	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。(思考・判断・表現)			
	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
生活設計 ・これからどう生きるか ・青年期の自立 ・衣生活を見直す ・衣服の機能と着装 ・衣服の材料と成り立ち ・衣服の管理 ・安心して衣服を着るために ・いろいろな人が着る衣服 ・これからの衣服 ・食べることを通して ・栄養と食品 ・栄養素のはたらきと食品の栄養 ・食事をつくる ・食品の選択 ・食品の取り扱い ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		<ul style="list-style-type: none"> ・より豊かなライフプランを考えることができる。 ・社会と生き方の多様化の広がりについて考える・差別のない社会をつくる方法を考える ・自分の自立度を考え、課題解決に向けた行動を理解し、ひとりで暮らすために必要な生活スキルについて考える ・着方の工夫や、暑い時、寒い時の服の着方について考える ・肌着を着る効果や衣服を着装する際に気を付けるポイントをTPOを踏まえて考える ・季節に応じた着装を考え、衣服の機能や構造を知る ・常生活の中で衣服にどのような汚れが付着するかあげ、適切な洗濯方法を考える ・衣服の購入の際、店舗販売や無店舗販売のメリット、デメリットを比較し、衣服の管理方法を理解する ・ライフステージの変化にともなった着脱のしやすさについて、他分野の学びを踏まえて考える ・持続可能な衣生活に向けた一人ひとりの行動について考える ・食生活を振り返る ・「食品群別摂取量のめやす」や「食事摂取基準」について理解する ・栄養素とのはたらきについて調べる ・調理を効率よく行うためにはどんな工夫が必要か考える ・食品の表示に書かれていることや食品添加物を調べる ・日常生活で食中毒を予防する手立てを考える ・生活の中から課題を見つけ、自ら課題解決のために行動する 		
ホームプロジェクト発表 ・食品の安全性 ・豊かな食生活の背景には ・社会の変化と家族 ・子どもと出会う ・子どもの心とからだの発達 ・子どもの生活 ・子どもと遊び ・子どもの育つ環境と社会 ・子どもの権利と福祉 ・子どもと共に育つ ・家族・人生・生き方と法律 ・多様な課題を抱える家族・家庭 ・持続可能な生活と仕事 ・多様な生き方を保証する社会へ ・住まいの選択 ・ライフスタイルと住まい ・さまざまな家族・さまざまな住まい ・住まいの安全・安心 ・住環境の安全・安心 ・環境共生の今・昔 ・住まいづくり・まちづくりへの参加		<ul style="list-style-type: none"> ・人前で自分の研究を発表する ・食品の安全性の管理・評価・担保をだれがどのようにするのか調べる ・国内の食料自給率が向上するとどのような利点があるか調べる ・家族構成の変化とその背景についてまとめる ・子どもの特徴や感性などについてまとめ、子どもとふれあう機会を共有する ・乳幼児期の子どもの発達の特徴についてまとめる ・生活リズムや基本的な生活習慣の援助について理解する ・子どもが安心して遊びを楽しむための環境を考え、子どもとふれあい遊びを体験する ・さまざまな保育の場があることを確認し、子育て支援やその課題について調べる ・子どもが持つさまざまな権利や子ども・子育てに関わる法律について確認する ・子どもの育ちを支えるためにできることを考える ・他者よりよい関係を築くための方法を考え、家族法の基礎的な知識や近年の動向を確認する ・家族の抱える困難に対して社会ができることを考えまとめる ・生活時間を知り、仕事や働き方に関する制度や法律などを確認する ・ライフコースが多様化している現状をさまざまな資料から確認する・ ・ひとり暮らしを始めるときの自分のなかの優先順位について理由と共にまとめる ・自分の理想の間取りを考える ・人とかかわりを大事にする暮らし・住まい方が求められる背景を考える ・身の回りのバリアフリーやユニバーサルデザインをあげる ・自宅や学校、その近隣のハザードマップを調べ、災害時の連絡方法を家族で話しあう ・伝統的な住まいの工夫と四季について考える ・空き家問題や持ち家のメンテナンスにどのようなことが必要になるか考える 		
<ul style="list-style-type: none"> ・お金の管理とライフデザイン ・暮らしと経済のかかわり ・意思決定と契約 ・購入方法の多様化 ・消費者問題 ・消費者保護 ・持続可能な社会をめざして ・消費者市民社会 ・高齢者を知る ・高齢社会の現状と課題 ・高齢者の尊厳と自立の支援 ・高齢者を支える制度としくみ ・生活を支える福祉と社会保障制度 ・共生社会の実現に向けて 生活設計—自分の未来を描く—		<ul style="list-style-type: none"> ・生命保険や1か月の支出、ライフイベントにかかる費用を調べる ・グローバル化によって私たちの暮らしにどのような影響があるか考える ・インターネットで商品を購入し、商品が手元に届くまでにどんな契約が必要になるか書き出す ・さまざまな支払方法のメリット・デメリットを理解し、多重債務に陥らないために必要なことを考える ・日常生活の中で、消費者被害の防止のためにどんなことに気をつければよいか考える ・消費者を守る法律はどのような場合に有効か知る ・持続可能な発展のため、自分の生活や日本の現状について事例をあげて検証する ・商品やサービスを購入する時に優先すべきことをあげる ・身近な高齢者にインタビューし、高齢期について理解する ・さまざまな資料から高齢社会の現状や課題を確認する ・介助者への支援としてどのようなものがあるか調べ、体験する・高齢者の心身の特徴についてまとめる ・地域で行うことができるものについて考え、年金の意義について話し合う ・現在の日本の社会保険制度の課題と背景についてまとめる ・住んでいる地域や学校の課題解決や魅力づくりの取り組みについて考える ・仕事について、自分の考えをまとめ、自分のライフステージを考える 		

令和5年度 教育計画(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科 理数科学科 人文社会科学科	2	情報	情報 I	2
教科書		補助教材		
高校情報 I Python (実教出版)		高校情報 I Python 学習ノート (実教出版)		
到達目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	
学習の評価	【知識・技能】 定期考査で、それらをはかる基本的な問を設定し、その結果から評価する。 【思考・判断・表現】 定期考査で、既習内容から論理的思考力を問う問題を出題し、その結果から評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 考査や実習課題、実技テストのとりくみなどから総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第3章 デジタル 10 デジタル情報の特徴 11 数値と文字の表現 12 演算の仕組み 13 音の表現 14 画像の表現		<ul style="list-style-type: none"> ・アナログとデジタルのそれぞれの特徴や違い、相互変換の方法 ・2進数, 10進数, 16進数をそれぞれ相互に変換する方法 ・2進数の簡単な加算と減算について ・AND, OR, NOTの基本論理回路 ・音やデジタル化(標本化, 量子化, 符号化)の仕組みについて 		
第3章 デジタル 15 コンピュータの構成と動作 16 コンピュータの性能 AD データの圧縮と効率化 第6章 プログラミング 30 アルゴリズムとプログラミング 31 プログラミングの基本 32 配列		<ul style="list-style-type: none"> ・可逆圧縮と非可逆圧縮の違いについて ・アルゴリズムの基本とプログラムの意味 ・簡単な基本構造のプログラムを理解し, 作成 ・配列の役割や要素, 添字について ・添字によって要素を指定する方法 ・複数の添字を使って多重ループによる処理 		
第5章 問題解決 25 データの収集と整理 26 (ソフトウェアを利用したデータ処理) 27 統計量とデータの尺度 AD データ分布と検定の考え方 28 時系列分析と回帰分析		<ul style="list-style-type: none"> ・収集したデータを結合して, 新たな表を作成 ・表計算ソフトウェアのグラフ作成機能を使って目的のグラフを作成 ・ヒストグラムや箱ひげ図によるデータの分析方法について ・表計算ソフトウェアを利用して, ヒストグラムの作成 ・表計算ソフトウェアを使って移動平均を計算し, グラフ表示 ・表計算ソフトウェアを使って線形近似, 多項式近似によるグラフ表示 		
第5章 問題解決 AD 区間推定とクロス集計 29 モデル化とシミュレーション AD 確定的モデルのシミュレーション AD 確率的モデルのシミュレーション 第6章 プログラミング 33 関数 34 探索のプログラム 35 整列のプログラム		<ul style="list-style-type: none"> ・モデル化の目的や手順, モデルの分類方法について ・簡単な確定的モデルのモデル化やシミュレーションの手順 ・簡単な確率的モデルのモデル化やシミュレーションの手順 ・関数の概念, 関数の種類について ・交換法による整列のアルゴリズム ・選択法による整列のアルゴリズム 		
第4章 ネットワーク 17 ネットワークとプロトコル 18 インターネットの仕組み 19 Webページの閲覧とメールの送受信 20 情報システム 21 情報システムを支えるデータベース 22 データベースの仕組み 23 個人による安全対策 24 安全のための情報技術 第2章 情報デザイン 7 コミュニケーションとメディア 8 情報デザインと表現の工夫 AD プレゼンテーション 9 Webページと情報デザイン		<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークの仕組みや構成要素, プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について ・データを蓄積, 管理, 提供する方法, 情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について ・データを表現, 蓄積するための表し方とデータを収集, 整理, 分析する方法について ・メディアリテラシーの考え方や情報の信憑性について ・Webページの特徴や作成方法について ・HTMLタグやCSSセレクタの働き 		

令和5年度 教育計画(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	2	理数	理数探究	2
教科書		補助教材		
なし		なし		
到達目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付ける。 課題の設定と、仮説とその検証という科学的思考を身につける。	多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を探究し、解決する力を養うとともに、創造的な力を高める。	様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度を養う。 探究の過程を主体的に振り返り、評価・改善しようとする態度及び論理的な態度を養う。	
学習の評価	<p>【知識・技能】 実験、実習、グループ討論、資料・情報収集状況、レポート及びポスターや研究集録のまとめ状況から評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】 計画の作成、実験、グループ内討論及びポスターセッションでの討議などから評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 作文、調査・実習・実験の取り組み状況、グループ内討論やポスターセッションの参加状況などから評価する。</p>			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
① 課題設定・仮説・検証の計画立案		① 自然や社会の様々な事象に関わり、そこから数学や理科などに関する課題を設定し、仮説を導き出す。 仮説の検証のために必要な実験・調査を考え、計画を立案する。		
② 仮説の検証実験・調査の実施		② 数学的な手法や科学的な手法などを用いて、仮説検証のための実験や調査を行い、結果の処理などを適切に行う。		
③ 結果の分析・考察・推論		③ 得られた結果を、先行研究や理論などを考慮しながら、考察し推論する。 得られた結果を分析し、グループ内で論理的・科学的に妥当であるか討論する。		
④ ポスター発表と研究集録の作成		④ ポスターセッションで、課題解決の過程と結果や成果などをまとめ発表したり、質疑に応答する。 ポスターセッションで、他のグループの発表を聞き、論理の矛盾がないかを確認し、疑問点を質問する。 自分の研究内容をわかりやすく、適切な表現でまとめる。		